

## 第6回 藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議 議事要旨

■日時：2018年（平成30年）12月21日（金）  
午前9時00分から午前11時00分まで

■場所：藤沢市役所本庁舎 5階5-1会議室  
（神奈川県藤沢市朝日町1-1）

■出席者（敬称略、50音順）

会長：柳沢厚

副会長：岡村敏之

委員：相澤光春、浅井了之、石井博之、石川佳章、石渡悠祐、上田敬生、  
大矢卓嗣、川崎隆之、北村和利、幸嶋規之、小林寿美恵、佐藤大作、  
柴田賢一、嶋田勝弘、竹村裕幸、長瀬輝行、西村靖生、林正行、  
三上雅之、山田秀幸

事務局：藤沢市 都市整備部 藤沢駅周辺地区整備担当、株式会社日建設計

■議事次第

1 開 会

2 議 事

- (1) 第5回あり方検討会議における意見
- (2) 南口駅前広場の再整備の方向性について

3 その他

■議事概要：

○事務局から第5回あり方検討会議ならびに第3回交通調整会議において出された南口駅前広場に対する意見のまとめを説明し、南口駅前広場の再整備の方針、地上部における空間のイメージ、デッキのあり方について等、再整備の方向性について提示した。デッキのあり方については、パターンA～パターンDの4つのパターンについて示した。これらの内容を踏まえ、再整備の方向性に対する意見交換を行った。意見の概要は次のとおりである。

<デッキのあり方（パターンごとの意見）>

【パターンA】デッキを現状の形で全面的に架け替えた場合

- ▶ 今とほとんど変わらないのではないか。
- ▶ デッキは平らにしないといけないのか。（今と同様に勾配をつけて建物に合わせられないのか）
- ▶ 歩行者にとってもデッキと接続している商業ビルにとっても一番受け入れられやすく、現実的なのではないか。

【パターンB】 デッキを乗り換え部のみ架け替えた場合

- ▶ 市民のアンケートの意見や方向別利用者の動向の数字から見ると、中央のデッキのみで十分な案ではないのではないか。
- ▶ 街並みを考えると理想的である。北口と対比させ、南口は斬新的な新しい空間づくりをするのが良いのではないか。
- ▶ 隣接権利者にとっては、デッキ部が無くなることでビルのアクセス性に影響があるのではないか。

【パターンC】 デッキを乗換部のみ架け替え、周辺は民間で再整備した場合

- ▶ 民間に費用や管理を全て負担させるプランなのではないか。民間にとっても協力できるものであることをきちんと示す必要がある。
- ▶ ビルの建て替え等があり、官民一体で調整や協議が行われた上で、きれいに整備できれば素晴らしいのではないか。
- ▶ 時間的な調整、デッキの財産区分や高さの調整が課題になるのではないか。
- ▶ C案が本当に実現できれば、これからの駅前の重要な一つの方向性であると同時に、新しい藤沢の駅前 そのものになり得ると考える。

▶

【パターンD】 デッキを全面的に架け替え平面状の空間とした場合

- ▶ 地上部が暗くなることから、選択する案ではない。
- ▶ 方針③に合致しないのではないか。

【複数パターンの融合】

- ▶ C案は民間の負担が大きいため、AとBの中間くらいが良いのではないか。
- ▶ C案は敷地面積により不具合が生じる場合もあるため、AとCの融合が良いのではないか。

<デッキのあり方について>

- ▶ エスカレーター、エレベーターがあれば、2階デッキはもっと利用されるのではないか。
- ▶ デッキ部と地上部の歩行者数の資料について、日時の違いにより、少し差が生じるので、資料の数値を基にすることには課題があるのではないか。
- ▶ デッキがなくなると商業ビルに入る利用者が減ってしまうだろうと考える。それが民間企業の撤退につながり、藤沢の空洞化が進むのではないか。
- ▶ デッキがなくなることによって商業ビルに入るお客さんが本当に減ってしまうのか、もう少し考える必要がある。
- ▶ 歩行空間が広がるとすると、外周デッキがなくても地上部がパンクしてどうにもならないという状況ではないため、外周デッキは、公費でまちの回遊性や動線として今と同じ機能を担保するような形で再整備するのかどうかとい

うことである。

- ▶今のデッキの高さでバリアフリー基準を満たす方法を考えてほしい。
- ▶ビル建て替えまでの途中段階において、民間ビルとの接続のための階段の設置はバリアフリーではなく、方針と矛盾しているのではないか。
- ▶工事中の接続の部分の考え方等、途中段階のことをよく考えなければいけないのではないか。
- ▶地元の人間にとっては、買い物をするのに徒歩、自転車、バス等を利用するが、これらは全て地上であり、1階からビルに入るのが基本となる。
- ▶1階に意図的に人を下ろしていかないと、皆がなんとなく丁度いいと思っている地上部とデッキ部のにぎわいの比率は、保てないのではないか。
- ▶小田急線は1階にも改札を残すか残さないか結論を出していない。
- ▶デッキのメリット・デメリットについて、皆で議論をし、方向性を出して、その方向性に基づき考え方の整理をしたと認識している。

<再整備の方向性について>

- ▶地上部が魅力的だとまちが広がっていくのではないか。その時、デッキ階、地上階とまちを歩く人たちの関係をどうつくっていきけるかということだと思う。
- ▶デッキにおける機能的な処理がうまくいくか、いかないかということで案を決めるのではなくて、次の世代の人たちにとって財産になるような駅前をつくるために、どこを目指していくのかを真剣に考えて、魅力づくりをしていくべきである。

以 上